

登録コード:MH1A5400 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学 (健康教育)【22M以降】 Diagnostics and Technics in Midwifery		
担当教員	中込 さと子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 後期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	セクシャルリプロダクティブヘルス/ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもに関する幅広い教養と基礎的専門的な知識・技能を習得し、プライマリーケアのヘルスケア施設や学校での健康教育を計画し、実行し、評価することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	周産期医療に関する科学の進歩、現代の社会構造の変化をとらえながら、的確に個人のニーズと価値を尊重し、課題解決のためのセルフマネジメント力を向上しうる健康教育を実行する力を獲得する。	
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿、キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	個別ならびに小集団を対象とした健康教育案を作成する基本的理論を学習します。 基礎看護学・公衆衛生看護学・小児看護学、母性看護学、ヒューマンセクシュアリティ、関連の科目と関連があります。また、本授業は助産学実習 に取り組むための基本的知識を学習します。 本授業は、助産師資格取得の必須科目として開講します。担当教員の地域母子保健における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。男女共同参画に関する内容を含みます。		
授業計画	第1回(9月 3日1限) 相談・教育の基礎 対象理解 理論的基盤となる概念 学習理論 第2回(9月 3日2限) 相談技術の基本 相談活動の実際 基本となる教育技術 第3回(9月10日1限) 健康教育の実際 第4回(9月10日2限) 相談・教育方法 1)個別相談 2)集団指導 第5回(9月17日3限) 性教育の企画のシミュレーション 1 第6回(9月17日4限) 性教育の企画のブラッシュアップ 1 第7回(9月24日3限) 性教育の企画のシミュレーション 2 第8回(9月24日4限) 性教育の企画のブラッシュアップ 2 授業アンケート		
授業の進め方	第1～4回は講義と質疑応答で行う。内容は以下の通りです。 第1回 必携図書 序章と第1章 第2回 必携図書 第2章A～C 第3回 必携図書 第2章D 第4回 必携図書 第3章 第5～8回は、実際に性教育を学生全員で企画したものをシミュレーションし、学生全員でフィードバックしあい、助産学実習 につなぎます。		
テキスト、教材、参考書	必携図書 助産学講座5 助産診断・技術学 第1部(1～3章)第2部(4章) その都度、参考図書を紹介します。 母性看護学、公衆衛生看護学関連の講義資料も役立つでしょう。 また、大いに図書館を活用しましょう。		
成績評価の方法	高校生向け性教育に対し、企画から評価までを総合的に評価します。		
成績評価の基準	集団指導に関して、()企画の設定が適切であり、()集団の背景や特性をアセスメントできており、()その問題にどのような課題や問題があるのかを指摘できており、()それらの課題に対して適切な指導方法が選択されており、()適切に評価を行い、適切な見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」とし評価する。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」とし、80%以上、4項目までできていれば「やや上にある(良)」とし70%台、3項目までできていれば「水準にある(可)」とし、60%台とし、それぞれ点数化します。		
事前事後学習の内容	本授業の単位取得には45時間の学習が必要です。 教育企画を作成する前に習得すべき学習理論を学ぶことで、実際の企画案をスムーズに作成できます。 実際に教育案を用いて高校生に講義をするまでには、何度もグループワークを行います。そのためには、まずは個人レベルで分担し(毎回2時間程度)、調べたものを持ち寄り、ディスカッションして制作する必要があります。ディスカッション前後の事前事後学習は		

事前事後学習の内容	1時間以上かかるでしょう。 計画的に準備するために個人作業とグループ作業の時間を確保しましょう。
学生へのメッセージ並びに質問 ，相談への対応	自主的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。この実習もグループで行うので、他の学生の心身にも気を配りながら、皆で力を合わせて進んでほしい。個ではなく集団を対象に健康教育を展開するので、集団という対象を中心に考え、企画運営を進めてほしい。またこれまでのやり方にとらわれず、柔軟に考えて欲しい。質問や相談はいつでも応じます。 中込のメールは以下のとおりです。（snakagomi@shinshu-u.ac.jp） オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。担当教員の研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。